



OrderPatent

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 0116705

(43) Date of publication of application: 30.06.90

(51) Int. Cl. B65D 45/02

(21) Application number: 52321775

(22) Date of filing: 19.12.1987

(71) Applicant: SANSAL:KK

(72) Inventor: UEDA KAZUHIRO

(54) CONTAINER WITH LID AND MANUFACTURE THEREOF

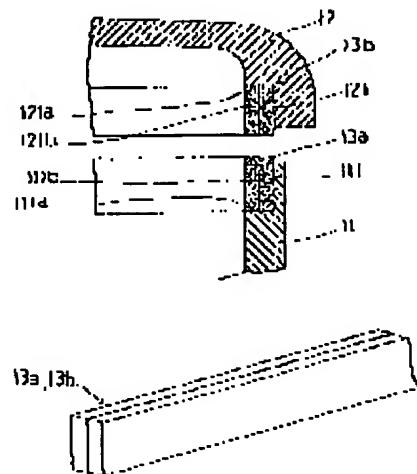
(57) Abstract:

PURPOSE: To seal off an offensive odor from inside and also make a lid easily undetachable, by providing two magnetized bodies consisting of a belt-shaped rubber magnet, one on the opening end of a container and the other on the corresponding portion of a lid and producing an attracting force therebetween with their different poles facing each other.

CONSTITUTION: Magnetized bodies 13a and 13b consist of belt-shaped rubber magnets which have a large amount of a highly magnetic metallic powder contained in the rubber and are magnetically stabilized by application of a high voltage and which are so arranged as to bring their north and south poles into contact. The magnetized bodies 13a and 13b are so arranged as to confront their north and south poles each other. These magnetized bodies are formed into a ring-shaped configurations with their diameters slightly larger than those across the side faces 111b and 121b of the recesses 111 and 121 of a container 11 and a lid 12 and bonded with an adhesive agent to the flat

faces 111a and 121a of the recesses 111 and 121 in such manner that such magnetized bodies are pressed against the side faces 111b and 121b of the recesses 111 and 121. The interference fit thus created in a film attachment and hence a high sealab between the container and lid.

COPYRIGHT: (C)1989,JPO&Japio





⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平1-167055

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)6月30日

B 65 D 45/02

C-6929-3E

審査請求 未請求 発明の数 2 (全4頁)

⑮ 発明の名称 蓋付容器とこれの製造方法

⑯ 特 願 昭62-321775

⑰ 出 願 昭62(1987)12月19日

⑱ 発 明 者 上 田 和 弘 滋賀県甲賀郡信楽町大字長野763番地

⑲ 出 願 人 株 式 会 社 三 彩 滋賀県甲賀郡信楽町大字長野763番地

⑳ 代 理 人 弁 理 士 長 屋 文 雄

目 次

1. 発 明 の 名 称

蓋付容器とこれの製造方法

2. 特 許 請 求 の 範 囲

(1) 容器本体の開口端と、該開口端へ合致すべく形成された蓋体の対峙部に、N・S極を隣接して配設した帯状のゴム磁石でなる帯磁体を、異極同志で吸引可能に配設し蓋体を開閉自在に形成したことを特徴とする蓋付容器。

(2) 容器本体の開口端と、該開口端へ合致すべく形成された蓋体の対峙部にそれぞれ段欠き部を設け、ついで、該それぞれの段欠き部の少なくとも一つの平面部へ接着剤を施し、さらに、該段欠き部へシマリバメ状に押設しうべくN・S極を隣接して配設した帯状のゴム磁石でなる帯磁体の外縁を該段欠き部直径よりやや大の輪状にし嵌装して固着することを特徴とする蓋付容器の製造方法。

3. 発 明 の 詳 細 な 説 明

(産業上の利用分野)

本発明は、飲食物用、ゴミ箱用さらには薬品用等各種用途に使用する蓋付の容器であり、この容器本体と蓋体の対峙部へN・Sを隣接し、異極同志で吸引可能とし強吸引で蓋着して、密閉度の極めて高い蓋付容器とこれの製造方法に関するものである。

(従 来 の 技 術)

従来、一般に使用されている蓋付容器は、容器本体の開口部と蓋体との蓋着部をこれらに設けられている凹凸部による嵌合形状となっているので蓋が外れ易く、また、内部へ臭気の強いもの等を収納した場合には外部へ漏れて不快なものとなり、よって、蓋付容器の使用用途がどうしても限られるものとなっている。

よって、本願発明者は先に実願昭58-173、590号蓋付容器の密閉構造すなわち、容器本体を陶磁器等で形成し、この開口部にドーナツ板

状の磁石ゴム体として蓋体を磁性材料で形成し、吸引しうべくなしたり、また、容器本体を磁性材料で形成して、蓋体をプラスチックとしこれの当接平面へ磁石ゴム体を配設して吸引しうべくなしたり、さらに、容器本体と蓋体とを陶磁器やガラス等で形成し、容器本体の開口部とこれへ蓋着する蓋体の当接にそれぞれ粉粒状の永久磁石を混入させて帯磁構造としたもの等を提案し、前記従来の不具合を解消はしたが、どうしても磁力に限界があって、強力な密閉構造とし内部よりの不快臭を断ち、かつ、取扱いが容易であるが、蓋体が容易に外れることなく、また、各種のものに適用可能で製作容易なもの出現が強く望まれている。

(発明が解決しようとする問題点)

そこで本発明は、前記従来技術の欠点を解消すべくなされたものであって、容器本体と蓋体を陶磁器、プラスチック、ガラス等の任意材料で形成し、これらの当接部の密閉を強固なものとなし、

(作 用)

容器本体の開口端と、該開口端へ合致すべく形成の蓋体の対峙部に凹設した段欠き部のそれぞれの平面部へ接着剤を塗布し、ついで、強磁性金属粉末バリウムフェライトをゴムに多量配合し、強電圧場下で帯磁安定化させてなる帯状のゴム磁石のN・S極を隣接して配設した帯磁体を、段欠き部外径より若干の大径の輪状にして、前記それぞれの段欠き部へ嵌装固定することによって、容器本体の開口端とこれと対峙する箇所へ帯磁体を配設して、これの吸引によって容器本体の開口端へ蓋体を強固に蓋着させたり、開けることができ、かつ、N・S極を隣接して配設してあるので、密着力が強くなって確実に外気と遮断でき、よって収容物に外気が影響したり、また、収容物の臭等が外部へ出る等がなく、さらに、帯磁体が段欠き部へシマリバメ状にして固着してなるので、この部分から臭いが出たり、また、蓋体をしばしば開

取扱いや製造を容易なものとなし、かつ、繰り返して蓋を開閉しても密閉機能を減少させず、さらに、各種のものの収納に適する蓋付容器とこれの製造方法の提供を目的とするものである。

(問題点を解決するための手段)

すなわち本発明の第一は、容器本体の開口端と、該開口端へ合致すべく形成された蓋体の対峙部に、N・S極を隣接して配設した帯状のゴム磁石でなる帯磁体を、異極同窓で吸引可能に配設し蓋体を開閉自在に形成した蓋付容器であり、また第二は、容器本体の開口端と、該開口端へ合致すべく形成された蓋体の対峙部にそれぞれ段欠き部を設け、ついで、該それぞれの段欠き部の少なくとも一つの平面部へ接着剤を施し、さらに、該段欠き部へシマリバメ状に挿設しうべくN・S極を隣接して配設した帯状のゴム磁石でなる帯磁体の外径を該段欠き部外径よりやや大の輪状にし嵌装して固着する蓋付容器の製造方法である。

閉しても外れることがなく、長期間確実に密着することが可能である。

(実 施 例)

以下引き続き、本発明蓋付容器とこれの製造方法の要旨をさらに明確にするため、図面を利用して一実施例を説明する。

蓋付容器1は容器本体11、蓋体12、帯磁体13とよりなり、該容器本体11は陶磁器やプラスチックさらにはガラス等で漬物等の食物や、ごみ屑や、また薬品等を収納可能に形成されていて、かつ、上方の開口端に平面部111a、側面部111b等よりなる段欠き部111を凹設して形成されている。

前記蓋体12は、容器本体11と同様陶磁器、プラスチックまたガラス等で形成され、前記段欠き部111と合致して対峙する位置に平面部121a、側面部121b等よりなる段欠き部121が凹設され、さらに頂部につまみ122を突

成してなっている。

前記帯磁体13a, 13bは、ゴムに強磁性金属粉末バリウムフェライトを多量配合し、強電圧場下で帯磁安定化せしめ、かつ、N・S極を隣接して取付した帯状のゴム磁石であり、帯磁体13aと帯磁体13bとは、N・Sの異極同士が対峙しうべく形成の上配設されている。

このように形成された帯磁体13a, 13bを、容器本体11と蓋体12の段欠き部111, 121の側面部111b, 121bでなる直径より若干大の輪状とし、ついで、該段欠き部111, 121の平面部111a, 121aへ該帯磁体13a, 13bを接着可能な任意の接着剤を介し接着され、かつ、段欠き部111, 121の側面部111b, 121bを押圧すべく付勢状で固着するので強固に配設され、さらに、それぞれがN・S極を隣接して対峙しているのてただ単に磁石を配設したものに比し格段に密閉度の高いものとなる。

めるため、磁極作用が二方向を有する各々の帯磁体となるので、従来の如き磁力線方向が一方のみ磁石体や磁石ゴム体比し、卓越的な磁力作用で各々の当接部分には強力な吸引力が得られるため、確実な密閉が可能となり、よって、ぬか埃等の臭気の強く、かつ、品質が変化し易いものを取貯した瓶にも、臭気を容器外へ発散させて不快感を生ずることなく、また、従来密閉不足による外部よりの虫等の進入を防止しえて、さらに、腐敗や品質を低下させることがない等、種々の目的の密閉容器として用いて著効であり、また、製造において帯磁体を容器本体及び蓋体の段欠き部径より若干大なる形状に形成せられているので、帯磁体を段欠き部に嵌入することにより帯磁体は外方へ張り出そうとする応力が作用して、従来の如く磁性材料を貼着する手間が省け、かつ、接着作業が容易であって、よって、製造が簡単であり強固に貼着しうるので、従来のように蓋体の開閉を

なお本発明において、容器本体および蓋体に使
用した材料は陶磁器、プラスチック、ガラス等
で説明したが、蓋付容器における容器本体及び蓋
体に使
用した材料は木材、紙類、ニューセラミック
等でもよく、さらには、容器本体および蓋体の
形状あるいは蓋体を嵌脱させる構造の装設手段等
は、本発明の前記した目的と作用効果の達成され
る範囲内においてそれぞれ任意に定められてよく、
また、荷磁構造も上記実施例に限定されず容器本
体と蓋体を相互吸引しうる構造であれば、種々変
更しても、これらの変更は本発明の要旨を何ら変
更するものでないことは申すまでもない。

(発明の効果)

以上、詳細に説明したように本発明は、磁極作用が二方向を有するゴム磁石等よりなる帯状の帯磁体を容器本体と蓋体の段欠き部の径より若干大なるように形成し、該帯磁体を段欠き部へ嵌入し、同様に容器本体の段欠き部にも帯磁体を嵌入せし

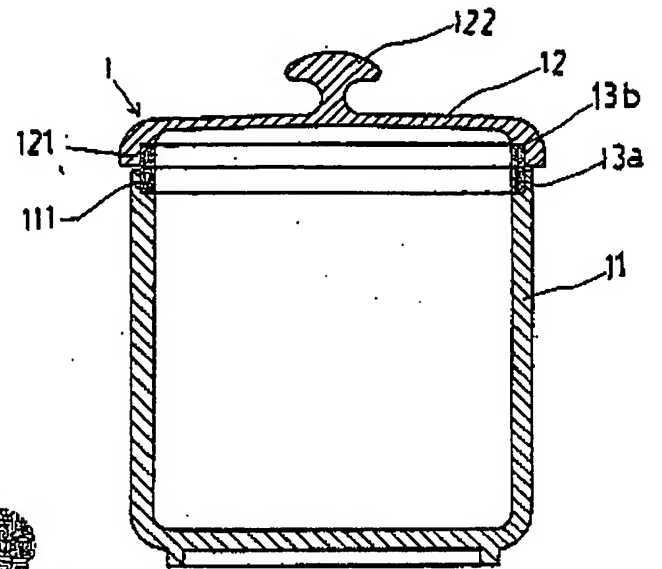
何度繰返しても離脱する惧れがなくきわめて耐久性の高いものとなり、かつ、卓抜的な磁力作用による吸引力等が得られるものとなる。

以上の説明によって明白となるように、本発明によれば、従前の蓋付容器に関し生じていた既述の問題点がきわめて簡易かつ効果的に改善されるので、本発明によってもたらされる実益は頗る大きいと申さねばならない。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明に係る蓋付容器とこれの製造方法の一実施例を示したもので、第1図は縦断面図、第2図は密閉部分の要部を示す縦断面図、第3図は帯磁体の斜視図である。

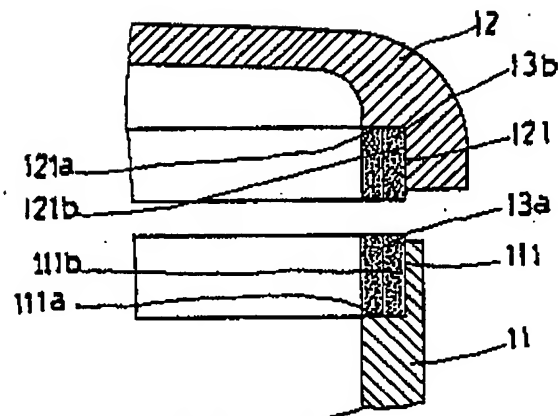
11-----容器本体
12-----蓋
13a, 13b---帶磁体。



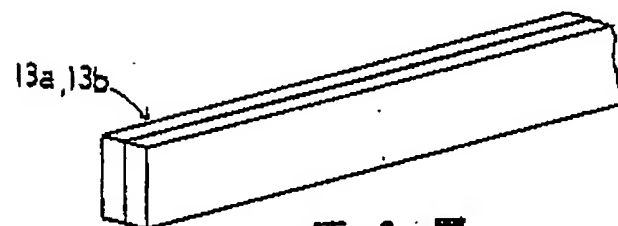
特許出願人 株式会社三彩
代理人 弁理士長慶文雄



第 1 図



第 2 図



第 3 図